

カトリック香里教会 聖母の被昇天 2021年8月15日

— 黙示録 11章・19a、12・1-6、10ab
1コリント 15・20-27a、ルカによる福音1章 39-56 —

そこで、マリアは言った。「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。身分の低い、この主のはしためにも／目を留めてくださったからです。今から後、いつの世の人も／わたしを幸いな者と言うでしょう、力ある方が、／わたしに偉大なことをなさいましたから。その御名は尊く、その憐れみは代々に限りなく、／主を畏れる者に及びます。

-ルカによる福音-

「8月6日」と「8月15日」に寄せて

8月いっぱいの緊急事態宣言の発令で、私たちは公開ミサの中止を余儀なくされていますが、二つの大きな祝日、主の変容(8月6日)と被昇天祭(8月15日)を祝う筈のこの8月は、特に日本の私たちに、ウイルスやオリンピックへの関心以上に重大な、二つの神のメッセージが向けられていることへの気づきが求められているでしょう。



一つは、豊かさを目指し、武力で他国を侵略していった悲しい罪の世界で、8月6日の炎天下、日本が人類初の被爆国となったこの日が、十字架に向かうイエスの変容の祝日と重なる意味と、もう一つは、戦争が止んだ8月15日が、私たちの未来の姿を示して、聖母が我が子イエスの変容と同じ姿で天の栄光に挙げられた、聖母被昇天祭と重なった意味です。

今こそ日本は、謙虚さと勇気をもって、貧しさに留まるイエスの生き方、すなわち、自我を捨てて聖霊による変容の世界に招かれたことに気づき、気づいたことを受け入れて生きること。

そして、私たちの救いは、世界が自我を捨て共生を目指して、全く、平和裏に聖母の被昇天を祝う心のうちに、神は私たちの未来の姿を秘めておられるという気づきです。



公開ミサ中止で、この二つの祝日と出来事の意味が、忘れられることを憂います。平和旬間(8月6日～の15日)を通して、聖母のとりなしを願い、恐れとエゴイズムに傷ついた世界の人々の心が癒されますように、そして世界に真の平和と回心がありますように祈りましょう。